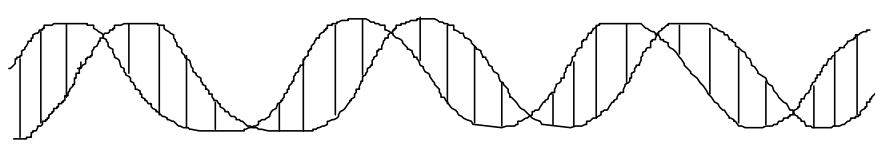
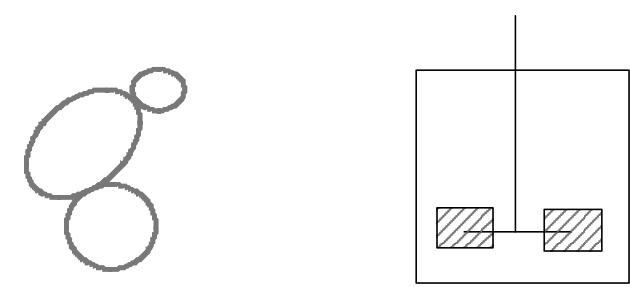


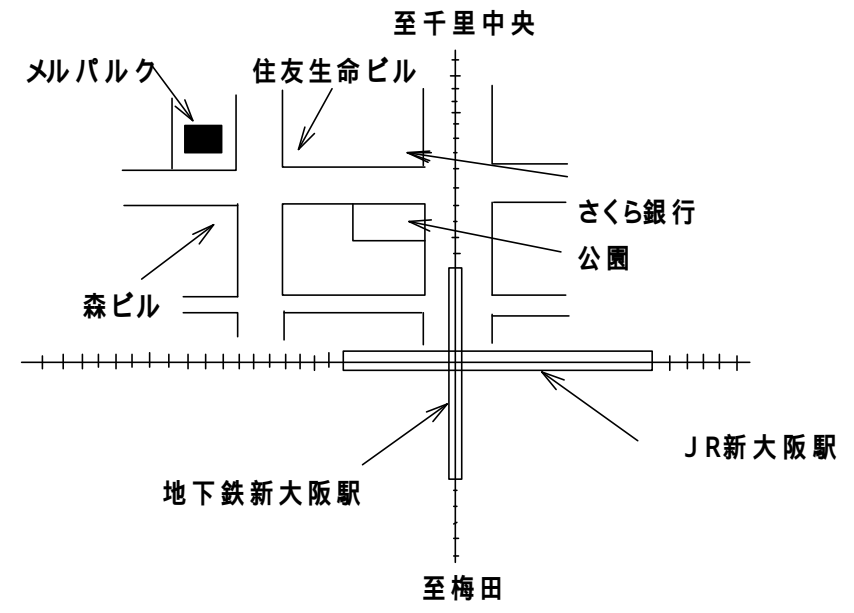
同窓会会報

第1号



大阪大学工学部
 醸造・醗酵・応用生物工学科
 同窓会
 平成10年9月

同窓会開催のご案内
 日時 平成11月13日(金)午後4時から
 (パーティーは午後6時から)
 場所 メルパルク大阪(新大阪駅すぐ、下図参照)
 (電話06-350-2111)
 会費 1万円
 講演者 大阪大学名誉教授・サントリー生物有機科学研究所理事
 和田博先生
 「アルコールを健全に飲むために」
 関西大学教授 松中昭一先生(昭和27年卒)
 「植物毒理学と私」
 出欠を同封の用紙にてFAXまたは郵送でお知らせください。



ご挨拶

同窓会会長 芝崎 勲(昭和18年卒)

長年にわたり同窓会活動は断続的に行われましたが、母校の創設百周年の記念事業の一環として、平成8年11月15日に同窓会の総会が催されました。その結果同窓会会則が決まり役員が選出されました。

年輩の故をもって私が会長に推薦されましたが、有力な副会長と教室の先生方のご協力を得て今後強力に同窓会活動を押し進めたいと決意しています。

既に同窓会名簿を刊行しましたが(平成8年11月15日)、今回同窓会誌第一号を発刊する運びとなりました。

同窓会活動の成否の鍵を握るのは同窓各位の母校への関心の度合いに依ると考えられます。何卒今後の絶大なるご支援を乞い願う次第であります。

-----目次-----

会長挨拶	1頁
学科専攻の動向	2頁
教室の構成	3頁
記事：お酒のおいしさ	4頁
KAIST-大阪大学セミナー報告	5頁
百周年記念会決算報告	8頁
同窓会規約	9頁
会員の動向	10頁

学科・専攻の動向

応用生物工学専攻・専攻長 菅健一(昭和37年卒)

皆様方のご協力に依りまして、一昨年創設百周年記念式典を盛大に催すことができましたが、あれからはやくも2年が経過いたしました。母校も、学部教官ならびに大学院における教育と研究の一層の充実をはかることを目的として、教育・研究組織の改組、再編いわゆる大学院重点改革が行われ、本年度をもって完了し、大学院大学となりました。これによって、従来の学部20学科、大学院22専攻の組織は学部4学科、大学院4系24専攻の組織に改められ、教官はすべて大学院の所属ということになりました。すなわち、我々が関係する講座は応用生物工学専攻に属する講座と物質・生命工学専攻の極限生命工学講座、産業科学研究所の生体応答科学講座ならびに生物工学国際交流センター内の2講座となり、次ページに示すように合計12講座になったこととなります。

大学に所属する私たちもそれぞれの講座の特徴を生かし、協力しあいながら研究の充実、優秀な学生の育成に邁進する所存であります。どうぞ今後とも、支援を賜りますと共に、この同窓会がいろいろの形で同窓の皆様にお役に立てばと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

お酒のおいしさ

博士課程47年卒 柳本正勝

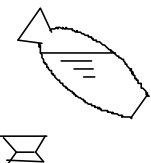
お酒のおいしさはアルコールに基づくとっても、おおかたの賛同が得られると思います。ところが、この常識、案外常識とはいえません。食べ物のおいしさの常識から判断すれば、ですが。

食べ物のおいしさは、五感すなわち味覚、嗅覚、触覚、視覚、聴覚で受容されることになっています。アルコールはどうでしょうか。テクスチャーはありません。形も色もありません。音もありません。せいぜい、僅かな甘みと匂いしかありません。甘味もそう魅力的なものでもありませんし、アルコールの匂いも、お酒の好きな人は好きですが、嫌いな人は嫌いという程度の代物です。この二つの感覚特性では、とてもお酒のおいしさを説明できそうにもありません。

結局、お酒のおいしさは、嚥下した後の体の中でのアルコールの効果によりもたらされると、考える必要があるようです。つまり、従来常識である「食べ物のおいしさは五感で受容される」という考え方を少し改めて、これに体内感とも呼ぶべき感覚も加える必要があります。同じような例に、お茶とかコーヒーがあります。これらのおいしさも、味も匂いもないカフェインの効果を考慮しないと説明できません。

お酒のおいしさがアルコールによる体内感に由来するとすれば、お酒のおいしさの重要な因子に好ましいアルコール濃度があることになります。それは気持ちよく酔うことができ、明日に持ち越さないアルコール濃度でしょう。

その濃度は約5%だと考えています。



大阪大学・KAIST二専攻大学院合同セミナー 研究科専攻レベルでの国際交流 生態工学研究室教授 塩谷捨明

KAIST(Korea Advanced Institute Science and Technology; 韓国科学技術院)大学院の生物工学専攻と我が専攻との合同研究セミナーも昨年4回目を数え、定着してきた。本セミナーは、大学院生が研究発表と討論を通じて隣国韓国との国際交流を図るユニークな試みであり、企画運営は大学院生によって行われている。この交流が始まった経緯については、高野光男先生が「生産と技術」第46巻1号(1994)に書いておられるので、ご覧頂きたいが、1993、95年、と韓国で、94、97年と日本で、交互に、夏休みを利用して行われてきた。昨年は、8月11-14日、鐘淵化学工業(株)研修センター「芦屋荘」をお借りして、KAIST院生13名、教官3名、本学からは院生・研究生19名、教官10名が参加して行われた。また、13日には、本専攻の見学と教官との交流も持たれた。本専攻の大学院生にとっては、英語で発表し討論するという場を持ったり、気楽な雰囲気、酒を酌み交わし(韓国の学生さんは一般に酒に強い!)交流することは、外国人がずいぶん身近になった最近においても、充分有意義なことと思われる。ただ、財政的には出来るだけの援助をと考え、関係者の方々にはご無理をお願いしたり、また同窓会からの援助も頂いた。ここに厚くお礼申し上げますと共に、今後とも皆様の御支援をお願いしたい。なお、今回は1999年夏、韓国にて行われる予定である。

日韓セミナーを終えて

応用生物工学専攻 博士課程2年白石竹彦

日韓セミナーはKAISTと阪大工学部との交流セミナーでその開始は数年前に阪大工学部の教授が招かれ、そのときに交流があったのが最初である。それ以来隔年で交互にお互いの国を訪問し、研究成果を発表しあうというスタイルで続いてきた。97年の今回は、KAIST側に日本にきてもらう番であった。

このセミナーの趣旨は、学生を主体とし交流を深めるためのセミナーであり、97年度にこのセミナーのための最初の会合があった際に、日本側、韓国側に学生の代表者を決め、準備、運営を行う事となった。

僕自身は他大学から編入したこともあり、全くこのセミナーの存在を知らなかったが、最初の会合の際に、話しをきき是非参加してみたいと思い、日本側の代表として仕事をさせてもらうこととなった。KAIST側の代表者と交渉し、日程の調整、人数の確認を行い、参加者を決めた。その結果今回は、参加者人数は日本側 学生15人、韓国側 学生12人(教官3人)という構成で行った。会場場所としては、人数及び親睦を深めるという目的から、宿泊施設がありしかも発表のできる設備のある場所を探していた。その結果、鐘淵化学工業(株)さんのご厚意により、研修センター『芦屋荘』を使用させていただける事となり、ここをメインの会場とする事となった。日程としては8/11-13の三日間で行い、その内容としては一日目、二日目は参加学生の発表並びに先生方数人による講演、三日目は親睦を深めるための、懇親会並びに学科紹介を行うこととした。

実際の準備、参加し終わってみて感じたことは学会等をコーディネートする難しさ及び、英語で発表することの難しさ、大切さの二点である。

・学会等をコーディネートする難しさについて

セミナーの準備にかかってみると、小さいとはいえセミナーを行う

にあたっては、非常に多くの労力を強いられること、また多くの人の協力無しにはできないということであった。また人を動かす難しさ等、苦勞して分かったこと、得たことも数多くあった。代表者になるということは初めての経験であったが、先生方の適切な意見、参加者の協力を得ることで、一応セミナーの形を整えることができたと思っている。

・英語で発表する難しさについて

もちろん日本語でもすべての人に自分の研究内容、主義主張を理解してもらう事は困難である。しかしそれ以上に、英語という母国語でない言語を使用し、発表することには想像以上の難しさがあった。僕自身、国際学会に参加したことはなく、英語によって、発表するということの難しさについて認識していなかった。しかし英語で自分の考えを表現し、理解し、議論するということは、国際学会等に行くこと、海外で研究生活を送る等の際はもちろん、日本国内にいたとしても、これからは必ず必要となることであると考えられる。そのことから今回の経験は、英語で発表することの大切さ、難しさを再認識し、自分自身の英語能力の低さについて危機感を抱かせてくれたという意味でよい経験となったと思っている。また実際に、生活環境、宗教観、等全く違う国の学生と3日間という一定の期間過ごし、話してみても分かったこととして、英語能力というのは、単語力だけではなく、いかに確固たる自分の考えをもち、主張すべき内容を持っているかという事にかかっていると感じた。

結論としてこのようなセミナーに参加する機会に恵まれたことは、研究者、もしくは一社会人としてこれから活躍すべき人にとって、共同で一つのことを継続、完結させること、また国際人としての感覚を養い、自覚を促すことについて非常に有意義な会であったと思っている。

最後にこのようなセミナーを開催できたことに関し、常に適切なるご指導、ご協力をいただいた阪大工学部の先生方並びに鐘淵化学工業(株)の方々に深く感謝の意を表します。

学生国際活動支援基金のお願い

同窓会では学科創立百周年を記念し、本専攻学生の資質向上を目指して「学生国際活動支援基金」をお願いいたしましたところ、多数の方からのご寄付を頂きました。本基金は学生および大学院生の海外での学会発表、海外学生との交流に使用致します。引き続き基金の充実を図りたいと存じますので、ご協力をお願いいたします。



一口 1,000円 (ただし端数でも可)

振込先口座番号：00920-5-83256

振込先加入者名：阪大醸造醗酵応生同窓会

通信欄に学生国際活動支援基金とご記入ください

大阪大学工学部 醸造・醗酵・応用生物学同窓会会則

- (名称)
本会は大阪大学工学部 醸造・醗酵・応用生物工学科同窓会と称する。
 - (会員の構成)
本会は次の会員で構成する。
 - (1) 正会員
イ 大阪大学応用自然科学科応用生物学コース、同大学大学院工学研究科、応用生物学専攻(以下教室と言う)およびそれらの前身学科、専攻の出身者。
ロ 上記イの教室および付則に示す関連講座の旧教官、現教官および現職員。
ハ 上記イの教室および付則に示す関連講座に係のあるもの(旧職員、研究生、実習生など)で、入会を希望し会長が承認したもの。
 - (2) 名誉会員
会員の中から幹事会の推薦により総会の承認を得たもの。
 - (3) 賛助会員
本会の趣旨の賛同し、付則に定める会費を納めるもので幹事会の推薦により総会の承認を得たもの。
 - (4) 学生会員
大阪大学工学部応用生物学コースおよび同大学院工学研究科応用生物学専攻に所属する学生。
 - (目的)
本会は会員相互の親睦を図り教室の発展に寄与することを目的とする。
 - (所在地)
本会の事務所は教室内に置き、会員の希望により支部を設けることができる。
 - (役員)
本会には次の役員を置く。
 - (1) 会長 1名 正会員の中から総会で選出する。
 - (2) 副会長 2名 正会員の中から会長が推薦し、総会で承認する。
 - (3) 幹事長 1名 正会員の中から会長が委嘱する。
 - (4) 常任幹事 若干名 正会員の中から会長が委嘱する。
 - (5) 幹事 若干名 正会員の中から会長が委嘱する。
 - (6) 監査 2名 正会員の中から総会で選出する。
 - (役員の仕事)
本会役員の仕事は次のとおりである。
 - (1) 会長は本会を総理する。
 - (2) 副会長は会長を補佐する。
 - (3) 幹事長は常任幹事を総括して会務を掌理する。
 - (4) 常任幹事は庶務、財務、企画、編集の事務を行う。
 - (5) 幹事は常任幹事を補佐する。
 - (6) 監査は本会の運営と会計を監査し、総会に報告する。
 - (役員任期)
役員任期は2年とし再任を妨げない。
 - (会議)
 - (1) 本会は原則として2年に1回総会を開き、役員改選、会計報告、会則改正、その他重要な事項を議する。
 - (2) 総会の議決には出席正会員の過半数の賛成を必要とする。
 - (会計)
 - (1) 本会運営の経費は会費およびその他の収入を持ってあてる。会費は付則に定める金額とする。ただし、名誉会員および学生会員からは徴収しない。
 - (2) 本会の会計年度は4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。
 - (会則の変更)
本会の会則は総会において出席正会員の三分の二以上の賛成を得て改正することができる。ただし、書面を持って賛否を表す場合は出席とみなす。
- 付則
- 大阪大学応用自然科学科応用生物学コース・同大学大学院工学研究科応用生物学専攻の関連講座とは、大阪大学生物工学国際交流センター、同大学工学研究科物質・生命工学専攻極限生命工学講座、同大学産業科学研究所生体応答科学研究部門生体膜分子工学研究部門およびその前身をさす。
 - 本則第9条の会費は次のとおりとする。
 - (1) 入会金 入会の際 5,000円。
 - (2) 会費 正会員は年額 2,000円。 賛助会員は年額 1口 5,000円。
 - 付則の変更は役員会の議をもって行う。
 - 本会則は平成8年11月15日から施行する。

同窓会現組織

- 会長 芝崎 勲
副会長 嶋谷幸雄、 松中昭一
幹事長 菅健一
常任幹事 関達治、島田祐司、卜部格、福崎英一郎、岸本通雅

会員の動向

(最近の動向がございましたら、同窓会までご一報下さい。)

教官の移動

平成9年度

4月1日

- 内山圭司(平成4年卒) (助手に採用)
木下 浩(京大・工) (助手に採用)
中川浩子(静大・農) (東大・分生研より国際交流センター助手に配置換え)
中嶋幹男(昭和60年卒) (阪大・応生より国際交流センター助手に配置換え)

5月1日

- 山下光雄(昭和56年卒) (助教授に昇任)

6月1日

- 林 誠 (東大・理) (助手に採用)
岡澤敦司(京大・農) (助手に採用)

11月1日

- 根来誠司(昭和52年卒) (阪大・応生より先導的オープン研究センターに配置換え)

平成10年度

4月1日

- 四方哲也(昭和61年卒) (助教授に昇任)

会員訃報

- 岡田弘輔(名誉教授：昭和23年卒) 平成10年2月19日

平成10年3月卒業、修了生就職先等

学部卒業

応用生物大学院進学 42名

物質・生命大学院進学 4名

就職 or 他大学進学

東大 農 院 リボン食品 東和薬品(株) 日本ベーリンガー・インゲルハイム(株)

NTT 阪大 理 院 ヤマハ音楽学校 須磨水族園 (株)三和酒類 藤沢薬品工業(株)

大学院前期課程修了

大学院後期課程進学 6名

物質・生命後期課程進学 1名

キリンビール 日本ベーリンガー・インゲルハイム

日本食研 オリエンタル酵母 西宮酒造 キッコーマン

三和澱粉工業 東大・院・理 P & G 京大・工・院

通産省生命工業技術研究所 クボタ アサヒビール 住友銀行

ユニチカ 藤沢薬品工業 東大・院・医 阪大・院・医

不二製油 サントリー 山ノ内製薬 ユニバース情報システム

アサヒビール サッポロビール 兵庫県竜野保健所

ハウス食品工業 キリンビール ビオフェルミン

藤沢薬品工業 ニッカウエスキー ノエビア

江崎グリコ 大塚製薬

大学院後期課程修了

広島大学大学院助手

NEDOポスドク

大阪大学医学部ポスドク

Chulalongkorn University

University of Baluchistan

Silpakorn University

Chulalongkorn University

University of Philippine

クラス会幹事(クラス会幹事の方には会員の所属の移動等について同窓会への連絡をお願いいたします)

昭和7年	三輪大作	昭和36年	戸田廣良	昭和57年	片倉啓雄
昭和12年	森 太郎	昭和37年	菅 健一	昭和58年	森川正章
昭和15年	石井隆一郎	昭和38年	吉田敏臣	昭和59年	藤山和仁
昭和16年	武田六郎	昭和39年	藤田正憲	昭和60年	中嶋幹男
昭和18年	芝崎 勲	昭和40年	新名惇彦	昭和61年	大政健史
昭和19年	松本 博	昭和41年	関 達治	昭和62年	山本恵三
昭和20年		昭和42年	卜部 格	昭和63年	向 由紀夫
昭和21年	高岡祥夫	昭和43年	関口順一	平成元年	永尾寿浩
昭和22年		昭和44年	土戸哲明	平成2年	松本雄大
昭和23年	畠山 脩	昭和45年	古川憲治	平成3年	鈴木市郎
昭和24年	野口祐一	昭和46年	山本忠行	平成4年	内山圭司
昭和25年	橋田 度	昭和47年	島田裕司	平成5年	滝口 昇
昭和26年	辻坂好夫	昭和48年	曾根良昭	平成6年	松浦友亮
昭和27年	松中昭一	昭和49年	小西喜朗	平成7年	永久圭介
昭和28年	檜作 進	昭和50年	中塚正博	平成8年	金谷 忠
昭和29年	嶋谷幸雄	"	東浦忠司	平成9年	小林 肇
昭和30年	大嶋泰治	昭和51年	溝口晴彦	平成10年	田中礼央
昭和31年	清井正好	昭和52年	根来誠司		
昭和32年	田端司郎	昭和53年	金子嘉信		
昭和33年	中桐義隆	昭和54年	高木 睦		
昭和34年	野本哲也	昭和55年	滝沢 昇		
昭和35年	森元英雄	昭和56年	阿野貴司		

年会費納入のお願い

会員各位：

拝啓 ますますご清祥のことと拝察します。

さて、下記記載の要領で平成11年度年会費の納入をお願い申し上げます。会計事務の都合上、出来るだけ、郵便貯金口座からの自動払込の手続きをお願いします。

敬具

記

1) 郵便貯金口座自動払込を申し込まれる場合

同封の自動払込利用申込書(複写式5枚綴り)に必要事項を記入の上、最寄りの郵便局にてお申込み下さい。今後、毎年11月30日に貴口座より、年会費2,000円を自動引き落としさせて戴きます。(自動払込申込書は各郵便局にもございます。)手続きの都合上、10月15日までをお願いします。

(ご記入内容)

払込先口座番号：00920-5-83256

払込先加入者名：阪大工醸造醗酵応生同窓会

払込開始月：平成10年11月から

払込日：30日

払込金の種別：会費

2) 郵便振替にて納入される場合

同封の払込通知票を用いて、最寄りの郵便局にてお振込みください。

(ご記入内容)

払込先口座番号：00920-5-83256

払込先加入者名：阪大工醸造醗酵応生同窓会

金額：¥2,000

大阪大学工学部 醸造・醗酵・応用生物工学科

同窓会会報 第1号

平成10年9月15日 発行

印刷所 中西印刷

発行人 同窓会幹事長 菅健一(昭和37年卒)

〒565-0871

吹田市山田丘2-1

ホームページ <http://www.bio.eng.osaka-u.ac.jp/>